

竹島の日本地図についての 韓国側の報道・論文に対す る反論(6)

— 2015年7月17日付韓国・中央日報
報道の地図について(3) —



船杉 力修
(島根大学准教授)

はじめに

- 1 1937年陸地測量部「地図区域一覧図」について(第5巻1号)
 - 2 1956年地理調査所「地図一覧図」について(第5巻2号)
 - 3 1802年林子平「大三国之図」について
- (1) 韓国側の主張
 - (2) 絵図の記載内容(以上、本号)
 - (3) 幕末における林子平の地図の位置づけ(以下、次号掲載予定)

おわりに

3 1802年林子平「大三国之図」について

(1) 韓国側の主張

1802年林子平「大三国之図」については、まず、拙稿(2015②)¹で引用した、韓国・中央日報の2015年7月17日付記事「1956年日本政府が作った地図一覧図にも「独島」はない」の記事に次のように出ている。「まず林子平の「大三国之図」(1802)は、独島を明確に朝鮮の所有と明記することで、「独島が日本の固有領土」だったという主張が虚構であることを立証している。林子平は当代で最も著名な地図編纂者であった。彼は西欧列強のアジア進出が可視化し始めた当時の国際情勢のなかで、日本が周辺国との国境を正しく整理する必要があるという考えで地図を製作した。彼は直接書いた『三国通覧図説』の序文に、自分の地図が個人

¹ 拙稿「竹島の日本地図についての韓国側の報道・論文に対する反論(4) — 2015年7月17日韓国・中央日報報道の地図について(1) —」、島嶼研究ジャーナル第5巻1号、2015年。

的判断によるものではなく、当時公開された様々な地図を客観的に反映して作ったと明らかにした。」としている。

わが国の地図史を踏まえれば、江戸時代後期で「最も著名な地図編纂者」は林子平ではなく、「改正日本輿地路程全図」を編集した、水戸藩の地理学者長久保赤水である。赤水日本図は赤水没後5版まで版を重ねたほか、模倣版、海賊版まで出版されたことで有名である。また「客観的に反映」というのは、『三国通覧図説』の題初にある記載、朝鮮図・琉球図・蝦夷図・無人島図は「小子敢テ杜撰スルニアラズ」、「一モ私照ナシ」、すなわち、すべて確実な根拠によって作製したことを明らかにしたという箇所を踏まえて記載したと考えられる。しかしながら、参考にした蝦夷図はすでに古く、不正確な絵図であったこと、さらに、4つの図を合成して1つの図、わが国と周辺国との接壤方位関係を示した「三国通覧輿地路程全図」を編集する際に、当時東アジアの正確な地図がなかったため、林子平の主観が入ったことは言うまでもない。したがって客観的な地図であるとは言えない。当時の絵図は編集図という性格上、絵図を分析する際には、絵図の記載内容まで踏み込み、編集作業を通じてどの絵図の内容を取捨選択したのかまで検討しなければ、絵図の本質は明らかににはならないのである。

さらに、2015年7月17日付韓国・中央日報には、上記記事以外に、「1802年日本地図「独島は朝鮮のもの」という記事が掲載され、1802年林子平「大三国之図」を取り上げ、竹島が韓国領である証拠であると大きく報道された²。韓国・中央日報の該当記事は電子版で、今後削除される可能性があるので、記事を引用する。なお、韓国語版と日本語版の記事を比べると、若干韓国語版の記事の方が詳しいので、韓国語版の記事の翻訳を引用することとしたい。

1802年日本地図「独島は朝鮮のもの」

[中央日報] 入力 2015.07.17 01:31 / 修正 2015.07.17 09:42

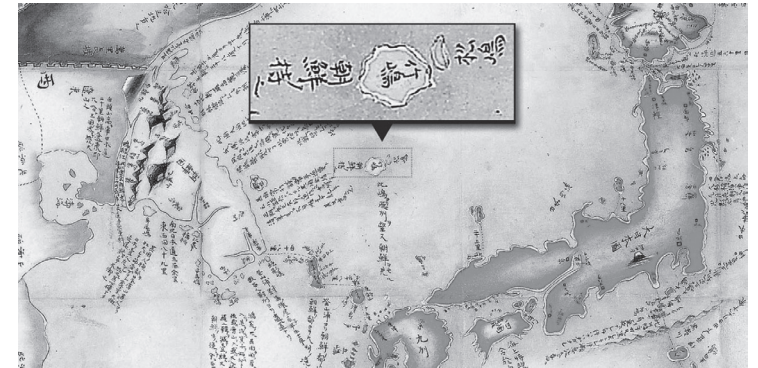
2 2015年7月17日付韓国・中央日報「1802年日本地図「独島は朝鮮のもの」」(韓国語) http://article.joins.com/news/article/article.asp?total_id=18258937 (2017年2月20日最終閲覧)。本文中にある「朝鮮ノ持之」は、「朝鮮ノ持也」が正しい。また「琉球」、「蝦夷」は誤字で、「琉球」、「蝦夷」が正しい。

江戸時代に作られた「大三国之図」

当時日本名「松島」と表記

朝鮮所有という文言もつけて

ウリ文化を守る会来月公開



http://pds.joins.com/news/component/htmlphoto_mmdata/201507/17/htm_2015071721038a010a011.jpg

朝鮮領は黄色、日本領は赤色 = 1802年に刊行された林子平の「大三国之図」。日本と周辺国の境界及び形勢を細密に載せた接壤地図だ。地図中で日本は赤色、朝鮮は黄色に塗られている。拡大した部分は地図に載せられた鬱陵島と独島の姿。鬱陵島には19世紀初めまで日本が鬱陵島を指し示した名称である「竹島」が、独島には当時の日本名である「松島」が書かれており、黄色く塗って朝鮮の領土に含ませた。鬱陵島の左側に「朝鮮のもの(朝鮮ノ持之)」と解説をつけた。[写真 ウリ文化を守る会]

独島が朝鮮の領土であることを文字で明記した江戸時代(19世紀初め)の日本の古地図が発掘された。18世紀日本の儒学者であり、地理学者であった林子平(1738～93)が製作した1802年版「大三国之図」だ。この地図には、鬱陵島と独島の名前が当時の日本名で書かれており、下側に「朝鮮のもの(朝鮮ノ持之)」という解説がついている。当時日本が独島を朝鮮領土として明確に認識していたことを示す重要な資料になるとみられる。

社団法人(社)ウリ文化を守る会(会長ソ・ヨンフン)は、昨年入手したこの地図に今年8月発刊する『日本古地図選集』を通じて一般に公開する。「大三国之図」は、すでに学界に広く知られた林の1785年の地図「三国通覧輿地路程全図」を生前に修正・補完したもので、林の死後の1801年から1802年にかけて出版された。二つの地図とも、日本本土はもちろん周辺国である朝鮮、琉球(現沖縄地域)、蝦夷(現北海道地域)などを一緒に載せて、日本と周辺国の間の境界と形勢をひと目で見られるように作られた。

地図には朝鮮国の右側の海に、鬱陵島と独島が描かれており、朝鮮半島と同じ黄色で塗られている。色で鬱陵島と独島を朝鮮領土に含ませたのである。

大きな島の鬱陵島には、当時日本が鬱陵島を指し示した名称である「竹島」が、小さな島には当時独島の日本名であった「松島」が書かれている。島の隣には「朝鮮のもの」という文言が書かれている。

古地図の専門家は、この地図に先立って編纂された「三国通覧輿地路程全図」を、独島と鬱陵島が韓国領として描かれた一番古い地図として挙げてきた。この地図にも鬱陵島の隣に「朝鮮のもの」という同じ説明が付いた。しかし、この地図には鬱陵島にだけ島の名称が書かれており、独島には何の名称も書かれておらず、議論されてきた。日本の研究者は鬱陵島の隣の島が独島ではなく、現在鬱陵島の隣にあるデッソム(竹島、あるいは竹嶼島)を描いたものに過ぎないと主張した。ハン・チョルホ(韓哲昊)東国大歴史教育科教授は、「これまで韓国と日本の学者が「三国通覧輿地路程全図」の鬱陵島(竹島)のそばの島が独島かどうかをめぐり熾烈に争ったが、今回発掘された「大三国之図」で、これまでの論争に終止符をうつことができるようになった」とし、「独島が自国の固有領土であったという日本の主張を正面から反論する資料」と述べた。

『日本古地図選集』には、「大三国之図」の他にも、1937年日本の陸軍省陸地測量部が発行した「地図区域一覧図」、56年日本の建設省地理調査所が発行した「地図一覧図」など18点の日本地図が載せられた。日本が独島を島根県に不法編入した1905年以前はもちろん、その後も

日本政府が独島を韓国領土と認知していたことを示す地図である。

イ・ヨンヒ記者 misquick@joongang.co.kr

http://article.joins.com/news/article/article.asp?total_id=18258937

要するに、今回見つかった林子平製作の1802年版「大三国之図」では、「竹嶋」(=現在の鬱陵島)近くの島に「松嶋」と記載されていることから、この近くの島は現在の独島であること、さらに「竹嶋」と同様に「松嶋」にも朝鮮半島と同じ黄色が塗られていることから、この地図は独島が自国の固有領土であったという日本の主張を正面から反論する資料であり、当時日本が独島を朝鮮領土として明確に認識していたことを示す資料であるというものである。

2015年11月21日付韓国・中央日報には1802年林子平「大三国之図」を含めたわが国の古地図を収録した『日本古地図選集』が出版されたことが大きく掲載された³。記事では新たにイ・ジンミョン(李鎮明)編纂委員長(フランス・リヨン第3大学名誉教授)及びヤン・ボギョン(楊普景)大韓地理学会会長(誠信女子大地理学科教授)のコメントを記している。イ教授によれば、『日本古地図選集』は、「「独島が日本固有の領土」という主張が虚構であることを明確に示す重要な資料」としている。さらに、2015年12月2日付韓国・ハンギョレ紙でのインタビュー記事によれば、「今回のプロジェクトにより、日本の独島古地図選集3部作が完成すると、これ以上史料1,2枚に「一喜一憂」する必要がないだろう。次の課題は、強大な資金力を動員した日本の攻勢に効果的に対応できるように、選集を国内外に広く普及させることである」⁴としている。そこで、イ教授、ヤン教授のコメントと、『日本古地図選集』の概況を記した2015年11月21日付韓国・中央日報記事の一部をあわせて引用することとした。

3 2015年11月21日付韓国・中央日報「1802年日本地図には独島は朝鮮、尖閣は中国領」(韓国語) http://news.jtbc.joins.com/article/ArticlePrint.aspx?news_id=NB11098685 (2017年2月20日最終閲覧)。2015年7月17日付韓国・中央日報に重なる記載は省略した。

4 2015年12月2日付韓国・ハンギョレ「日本が自ら「独島は韓国領」と認めた古地図集大成しました」(韓国語) <http://www.hani.co.kr/arti/culture/religion/720083.html> (2017年2月20日最終閲覧)。